

# 世界の農業機械・資材トレンド

ヨーロッパの農機実用テストの権威、ドイツ「profi」誌に掲載された世界の農機の最新情報

On the road to Rio  
オーストラリア

## 「樹木ハーベスタ」、ブラジルで商品化するか



リチャード・サルマン氏は資金確保を求めてブラジルに樹木ハーベスタを持参した。

そこで、開発コストを確保し、投資を回収するためにバイオシステム社代表のリチャード・サルマン氏はより有望な将来性を見込めるブラジルに向かい、ビジネス構想を説明した。現在の試作機は1時間当たり35トンのバイオマスまで伐採できることが実証されているが、この処理量を約2倍まで伸ばせる潜在能力があるという。ブラジルではエネルギーの85%以上が再生可能資源でまかなわれており、その4分の1以上がバイオマスに由来している。現在、バイオマスは大半が廃木材が農産物の残さを原料としている一方、燃料供給を目的とした植林が急拡大している。例えば、本ハーベスタに関心を持つブラジルの林業グループは2015年までに500〜1000万トンのユーカー系バイオマスの収穫を見込んでいる。



バイオシステムズ・エンジニアリング社（豪州クイーンズランド州トゥーンバ市）は樹木ハーベスタを開発中だ。現在、商品化に向けて豪州のほかブラジルで資金調達のために活動している。

このハーベスタは樹高8mまでの樹木を伐採する能力を有し、実質的な収穫残さがゼロだという。バイオマスエネルギー発電に必要な大量の中型樹木を高速かつ効率的に伐採することを可能にする。

また、農地でも大規模なバイオマスを植栽する際、この機械の能力が発揮できるという。事業案としては、西オーストラリア州の小麦地帯などの農業地帯に新たな植林産業導入が挙げられている。この計画には同時に小規模な電力発電事業も含まれる。しかし、豪州の投資家たちはその実現可能性について慎重姿勢をとっている。

That'll be 138 new tractors, please  
南アフリカ

## 南アフリカの農業経営者、138台のトラクター一括購入



共同農場経営者ピーター・ヴァンジル、PGヴァンジル、ダーク・フリーの3人、そのスタッフ、ケースIH社とノースメック社の経営陣が記念撮影。



南アフリカのケースIH社の販売代理店ノースメック社はこのほど、138台のケースIHトラクターと4台の自走式スプレッシャー一式を出荷した。

納品先は、南アフリカの北西州でトウモロコシを1万8000haの圃場で生産するピーター、PGヴァンジル、ダーク・フリー3氏の共同農場。今回の購入は既存のトラクターを更新する目的だ。138台のトラクターの内訳は、60台のケースIH製98馬力JX95型トラクター、50台の125馬力Maxxum 125型トラクター、および28台の340馬力Magnum 340型となっている。4台のスプレッシャーは、250馬力エンジンおよび容量3、785リットルのタンクを搭載したRaptor 3330型である。

昨年7月、農場共同経営者の3人一行は、ケースIHとノースメック社のスタッフとともに米国出張し、購入するトラクター等を製造中の工場を訪問した。

この来訪について販売代理店の担当者アーノ・デュ・プレシ氏はこうコメントした。

「この顧客はケースIHハーベスタでこれまでずっと作業しており、当社製品の品質とこれまでのサーピスが今回のトラクター一式更新する際にながった。今回の工場訪問により、我々の関係はより強固なものになった」




**AGCO expands into grain storage**  
米国

**アグコ社、穀物貯蔵分野へ事業拡大**



GS-Iホールディングス社は穀物貯蔵設備の大手。養豚、養鶏分野の設備業界でも主カメーカの一ひつた。



 アグコ社は穀物貯蔵システム分野に事業を拡大している。この戦略の一環として、同社はGS-Iホールディングス社（イリノイ州アサンブション）を9億4000万ドルで買収すると発表した。

GS-I社はフォーチュン500社にランクし、穀物貯蔵装置メーカー大手で、養豚と養鶏産業用タンパク質生産設備業界でも大きなシェアを持つ。アグコ社は、GS-Iを傘下に収めたことで、140カ国以上にある2,600の販売代理店網を通じてこの分野で世界展開を拡充していく。

GS-Iグループは養豚、養豚および酪農業向けの暖房、換気システムも製造している。従業員は2,400名で、事業の71%は北米国、11%がアジア、9%が南米国で9%がアフリカ向けである。


アグコ社CEOのマーティン・リチエンハイゲン氏は「両社の組み合わせで、アグコ社は顧客に広範な製品とサービスを提供することができる」と話す。

GS-Iグループのスコット・クローソン会長兼CEOは今回の買収について次のように語った。

「世界的に食料需要が増加する中で、アグコ社の一員としてGS-Iグループはその恩恵を享受できる位置にある。この組み合わせにより、我々の顧客および従業員すべてに対してより強固な事業を構築し、成長の機会を最大化していく」

**Ploeger to join forces with Oxbo**  
オランダ

**オランダと米国の専用ハーベスタメーカーが合併**

 オランダのハーベスタメーカーPloeger Agro社は、米国のOxboインターナショナル社と合併する。両社とも自走式の作物専用ハーベスタを製造している。Ploeger社は豆類、ホウレンソウ、ニンジン、ジャガイモに特化したベリ、ラズベリーなどのハーベスタ専門メーカーだ。

Ploeger Agro社の創業者はオランダ南西部アウデンボス村でコントラクタ事業から転じ、1950年代、自社機械の製造を開始した。その後、製造拠点をアウトハステル村の近郊へ移転した。他方、Oxbo社は大西洋の反対側に位置するニューヨーク州バイロン町に本社を置く。

合併後の新会社名はDioses Oxboグループで、従業員は約540名、売上高は1億8000万ドルとなり、販売は両社の既存流通網を通じて行う。



Ploeger Oxboグループは専用ハーベスタをブラジルおよび中国で積極的に拡販する計画である。